

名寄市立名寄南小学校

指定年度：H25～
児童数：464名

1 包括的な学校改善に向けた取組の概要

年度の重点教育目標の実現を目指し、学校力の向上を図るためには学校経営方針を全教職員で共有し、組織として取り組むことが重要である。そこで、推進にあたってはチームが重点として取り組むべき内容と教育目標との関連を明確にして、教職員の協働体制を確立し、取組を進めてきた。



【幼児教育施設との情報交流会】

① 教育理念や経営方針の浸透

- ・学校経営方針をもとにロードマップを作成、視覚化、更に月別で経営計画を提示、年度の重点教育目標を実現するための検証改善サイクルを構築してきた。月ごとの進行管理により方針の浸透を図り、成果と課題を明確にし、その都度、課題解決を図ってきた。コロナ禍においても円滑な学校運営を行うことができた。
- ・教職員・保護者・地域住民で目標・方策を共有するため、あらゆる機会（参観日懇談、学校運営協議会、ホームページ、学校便りなど）を通じて情報発信し、浸透を図ってきた。
- ・幼児教育施設及び中学校と定期的交流の場を設け、それぞれの校種での取組や園児・児童や生徒の実態、課題などを交流し、議論することで共通理解を図り、理念や方針についても浸透を図ってきた。

② 働き方改革の推進

- ・学級担任の負担を軽減、業務の平準化を図る。年度始めでの組織・業務内容を職員の意見を反映させながら見直し、改善してきた。特に、学年サポート体制の確立は学級担任の負担を大きく軽減させた。
- ・学校行事や教育活動を目標から再検討し、保護者の理解を得ながら大胆な見直しを図ってきた。具体的には、行事の精選・検討、ICT機器の活用、「そろえる・整える」視点からの通信・掲示物などの見直し、メール連絡網導入、家庭訪問廃止、教育相談・懇談の充実、2学期制の導入、販売業務の業者委託などである。

③ 協働意識の高揚

- ・授業研究、ミニ研修、メンター研修を中心に据えた校内研修は、日々の授業改善を促し、教員が主体的に研修に関わり、ともに学ぼうとする意欲を向上させた。特に、ミニ研修は若い先生のニーズに合わせ、ベテラン教員の得意分野を生かしたもので、互いに切磋琢磨し、学ぼうとする意欲と資質能力の向上を図ることができた。
- ・新年度会議で「南小の取組」をプレゼンや動画で確認することで、チームとしての共通理解を深め、協働意識を高めている。また、定期的な便りの発行でも「そろえる指導、働き方改革、児童の自己肯定感を向上させる取組や教育環境の整備など」を取り上げ、チームとしての日常の指導の確認・見直しを図っている。



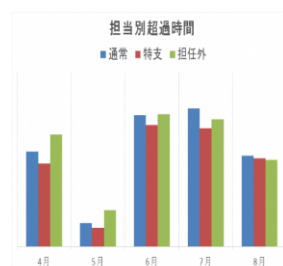
【共通指導事項】

2 取組の成果と課題（□：成果 ■：課題）

□学校力向上の取組は、年度の重点教育目標の達成を目指し、日常的教育活動が推進されていることを強く教員一人一人に意識させ、協働意識を高揚させた。

■これまでの取組を「確認、継承、深化」させていく手立ての構築が必要である。

■働き方改革については、業務の平準化の成果が表れた(右グラフ)が、子どもと向き合う時間の確保の視点から、さらに充実を図り、具体的な取組を促進する必要がある。



【担当別超過時間】